

残そう！自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.57 (夏号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

2014年7月25日発行

アサギマダラ マーキング会 参加無料！

日時: 8月31日(日) 午前8時 道の駅・ひだ朝日村集合(小雨決行)

※集合後、乗り合わせて移動します、15時半頃解散予定です。

持ち物: 捕虫網(貸出しもあります)、油性フェルトペン(黒・細書き用)、
弁当、飲物メモ用紙、帽子、雨具、その他日除け対策グッズ

指導: 鈴木俊文さん(岐阜県昆虫分布研究会)

海を渡るアサギマダラ、毎回マーキングした蝶が各地で再捕獲されています。

自然談話室 (第4回・5回)

日時: 9月12日(金) 午後7時～ (高山市民文化会館)

講師: 熊崎 詔之氏

話題: タカの渡りについて

(9月、タカの仲間が南に渡って行く様子などのお話)

日時: 10月17日(金) 午後7時～ (高山市民文化会館)

講師: 飯田 洋氏

話題: 夢の乗物、リニアって大丈夫?

(工事に伴う未曾有の環境破壊のおそれと、電磁波の危険性について)

自然観察会 (ドングリ植林地の観察)

日時: 10月5日(日) 午前9時 道の駅・ひだ朝日村集合(小雨決行)

※集合後、H.22.10に植林した場所(秋神温泉の奥)へ移動します

持ち物: 弁当、飲物、軍手、雨具、植栽用のスコップ等

※問い合わせ先: 松崎 (090-4214-5208、ponykun0428@hidatakaya.ne.jp)

野麦から乗鞍岳へ

田之本克己

6月29日が誕生日の私は、10日間の尾瀬合宿の最中に19歳になった。その合宿中に左肩を痛め、1年間は左手が使えず、以後、完全回復とはならず一生の古傷となった。当然、夏の合宿には参加できず治療に専念した。しかし、眼に見える効果はなかった。重い荷物を背負わなければ山行は可能だったので登山の機会を伺っていた。

今から48年も前のことではっきりした記憶はないが、高校時代の友人3人で話がまとまり、8月の夏休みのある日、それぞれ3台のバイクに乗り、未舗装の道を野麦に向かった。

途中に塩沢温泉という標識があったので、行ってみると地元の子供たちが温泉の湯が混じった沢で水遊びをしていたので、私たちも一緒になって水に浸かり土埃を落した。最近もそこへ行くことがあったが、当時のような豊かな水量の沢ではなくなっていた。更にバイクを走らせ野麦の神社に到着した。その境内の拝殿で宿泊をした。ラジウスで粗末な食事を作り食べ終わった頃は暗くなっていた。昼食用のおにぎりも作った記憶がある。今思えば結構真面目だった。

翌朝は何時頃だったか。神社の上手にある橋の袂から川の右岸に沿った道を登った。やがて道は消えた。しかし、そのまま沢に沿って登り続けた。右手に滝が見えた頃の傾斜は相当のもので、湿って滑りやすい斜面を、必死に生えている木につかまりながら泥だらけになって登り続けた。登り切った所は平になっていて、何とそこには道があった。私たちはその道を知らずに登って来たのであった。何故道なきルートを選んだのか。当時のガイドブックには神社の上手の橋から川に沿って登るルートが記してあったからだったと思うが定かではない。

道に出てからは何の緊張感もない登山となった。陽射しは強かったが麦藁帽子が快適だった。剣ヶ峰に登頂してしばし休憩した後、野麦に向かって下山した。

下山ルートはすべてしっかりした道であった。私たちが滝の傍を藪こぎしていた辺りの西側は長閑な牧場であった。いったい私たちは何であんな危険な所を登ったのかと笑いながら下山した。牧場を吹き上げる爽やかな風とともに、あのコースを登り切った充足感も爽快だった。再び3台のバイクで未舗装の道を走り、高山着は暗くなってからであった。

その後の知識で、摺曲の山の溪谷に比べ、火山の山の溪谷は急峻で深いということを知った。確かに乗鞍岳や御嶽山の溪谷は急峻で深い。

ある人が独りで子の原高原の北西を流れる徳河谷を安易に下ったが、下流に行くに従って滝が大きくなり、岸壁は急峻で迂回することもできず、最後は滝壺に飛び込みながら下り、夕暮れの国道に出た時は、国道の真ん中に座り声を上げて泣いたという話を聞いたことがある。私たちの行動も、真面目ではあったが、危険を知らない未熟者の19歳の夏の登山であった。

※田之本さんの青春時代の冒険を仮想追体験(?)するために、次ページに地図を掲載しました。

残念ながら当時の地図が無いので国土地理院のHPから、野麦～剣ヶ峰までの部分をダウンロードして作ってみました。

里山こみち・石仏を訪ねて

小原靖子

◎最初に見たお堂の石仏には青面金剛との柱。

これは庚申の神といわれ、今も伝承されている庚申講の神様。庚申とは干支のカノエサル、60日に一度めぐってくる。

庚申の日は夜も眠らずすごして、健康と長寿を願う信仰。庚申の神の体内にはサンシという虫がいて、カノエサルの日には人が眠っているときに抜け出し、天に昇って天帝にその人が日頃行っている罪を告げるといふ。罪の報告を受けた天帝は、罰としてその人を早死にさせるという。そのため、長生きするために庚申の夜は眠らないで大数珠を回して経文を唱えるといふ講。今もこの講は伝承されているそうですが夜の12時までになっているそうです。講神仏の腕は2、4、6本と在るそうですが、私たちが見た青面金剛は6本でした。



◎六地藏

北方の公民館横と坊方東のはずれにある六地藏を見ました。地藏様は地藏菩薩。菩薩ですが、頭髮をそり袈裟に衣という僧侶の服装で建立されています。菩薩様ですから、どおりでやさしい顔、納得しました。1体でのお地藏様は、道しるべ地藏が多いそうです。

六地藏は、仏教で我々が住む娑婆世界は地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天という六つの世界(六道)から成り立っていると考えられ、地藏菩薩は、娑婆世界を守る使命なんだそうです。六地藏は寺の門前や墓地の入り口に並んでいるそうです。坊方東の六地藏は、最も古い時代のもので3体彫りが2個並んでいました。



◎道祖神もいくつか見ました。

この地域では賽の神と呼ばれています。賽の神は悪魔や疫病の進入を防ぐ神様で、村境に置かれたそうです。厄除けの神、作の神、道の神、縁結びの神とも言われています。男女双像は人間的で親しみやすい神様ですね。男女席を同じゅうせずと言われた時代に、このような石仏がたくさん置かれたということは、なんだかほほえましく、嬉しい気分になりました。



◎馬頭観音

頭に馬を乗せている馬頭観音も何体か在りました。馬頭様は娑婆世界にあって、人間を救済する使命でさまざまな悪と戦う神で、顔は怒りの表情で眉間には第3の目が刻まれて

いて、顔も2面3面で手も6本あるものと、いろいろだそうですが、馬頭観音が置かれている場所は、かつては道の危険な所に多くおかれていたそうで、馬が通るところの安全とまた馬の供養の為だとも。馬の守護神ですね。



乗鞍岳自然観察会

塚越奈津子

どしゃぶりの雨音で目が覚め、お天道さま頼みをしながら、いそいそと準備。外へ出ると乗鞍の稜線は明るく、気持ち晴れやかに、いざ朴の木へ。すっかり雨のあがったバス停の気温15℃、昼平は5℃。雨の予報が功を奏し？人影まばらな「花の季節3連休ど真ん中」儲けもの！

31名、揃い踏みでめざすは大黒岳、整備し直されたハイマツの道。ハクサンイチゲ、コバイケイソウ、コマクサ、ヨツバシオガマ、コイワカガミ、ミヤマキンバイ、ミヤマダイコンソウ、ミヤマキンポウゲ、トウヤクリンドウ、どこか優しげなウラジロナナカマド、少しツンとおすましのタカネナナカマド。ハイマツの小道のミニ木陰には、ホシガラスのお食事処、コケモモの花を覗きこめば小虫さんたちがお食事中。

お楽しみのお弁当タイムはバスターミナル内。たくさんのおすそ分け、おかげさまで「携行食」は「大名弁当」に早変わり！！

お花畑は、時間帯も相まって、さすがに人出が多い。たまたまここに咲いた可憐なお花



たちは、宝塚で言えばトップスターか。

一方通行ではない木道、カメラ片手に夢中で下に降りる観光客の姿もチラホラ・・・。「もっと分かりやすい表示で一方通行を徹底するとよいのでは」、ココは考える会の皆で表情もキリリ。

イワツバメ、イワヒバリ、ホシガラスが目の前を飛んでゆく。かつてチベットで偶然見かけた鳥葬、(あのとき無数に集まっていたのは何ガラスだったのかなあ)とふと思う。

「夏山蒼翠(そうすい)にして滴るが如く」とは北宋の山水画家、郭熙(かくき)の言。1000年も前に彼の心をうごかしたのは、何処の夏山だったのか。誰に見られることがなくとも、瑞々しく息づく緑、可憐に咲き誇る花々は、いつもきっとそこにある。身も心もうるおうような乗鞍岳、2014年7月20日、本日も佳き日なり。



■ 会員を募集しています！ 年会費＝個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円
あなたの知人、友人に入会をおすすめてください

・郵便振替 00800-8-129365 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第 57 号(夏号) 2014 年 7 月 25 日 発行

発行者 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会

〒 506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL : 0577-32-7206 ・ FAX : 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者 : 松崎 茂

E-mail : ponykun0428@hidatakayama.ne.jp TEL : 0577-34-4703

■ 編 集 者 : 住 寿美子

TEL : 0577-34-7237

表紙写真提供 : 小池 潜

印刷 : アドプリンター